

第2章

統計から見たい

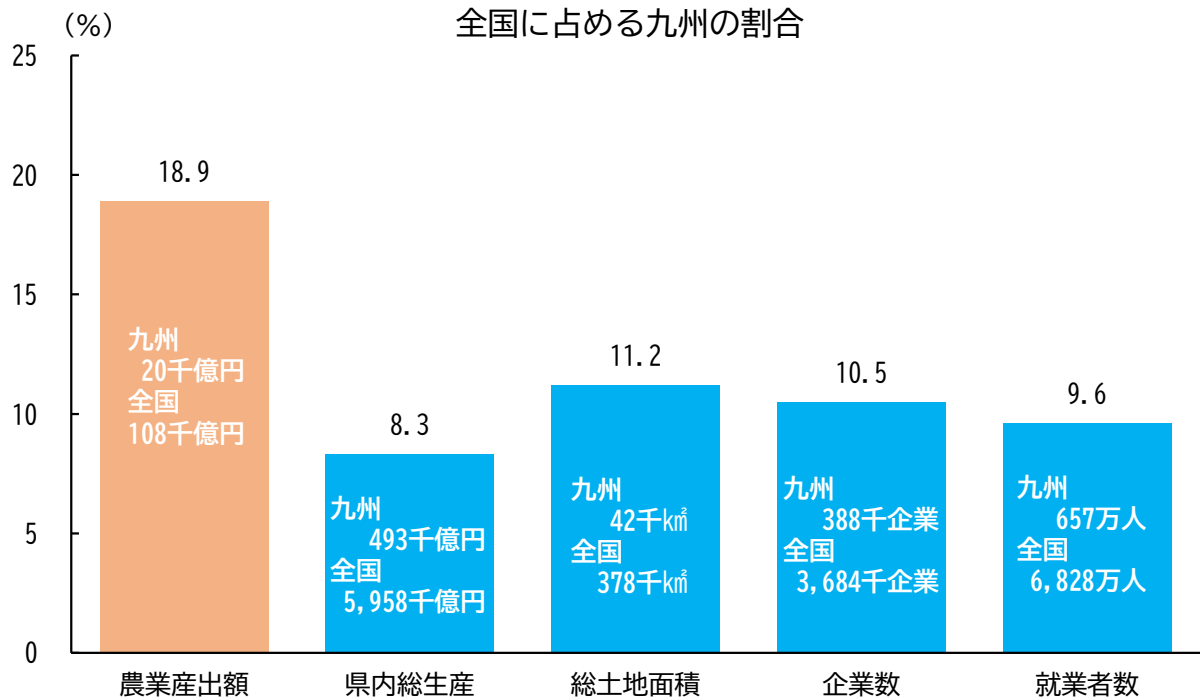


構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料供給基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

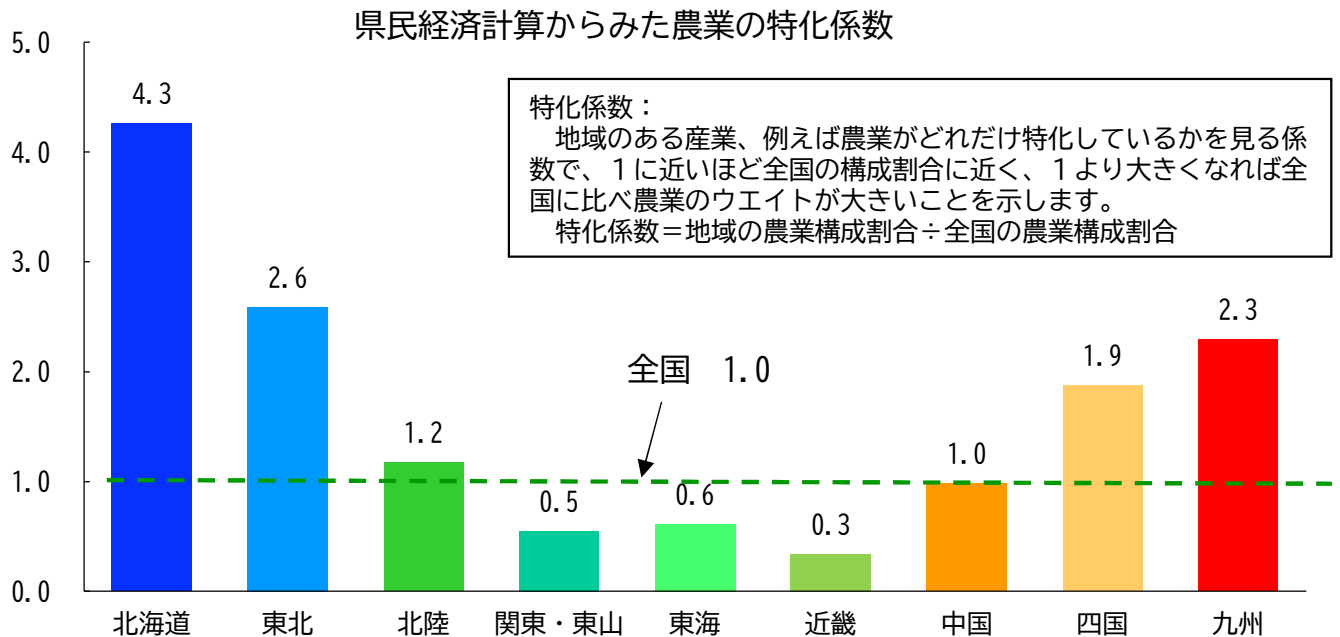
また、県民経済計算(県内総生産)の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウェイトが大きい地域であることが分かります。



資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」、内閣府「令和4年県民経済計算」
 国土地理院「令和8年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和3年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和7年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。

2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。



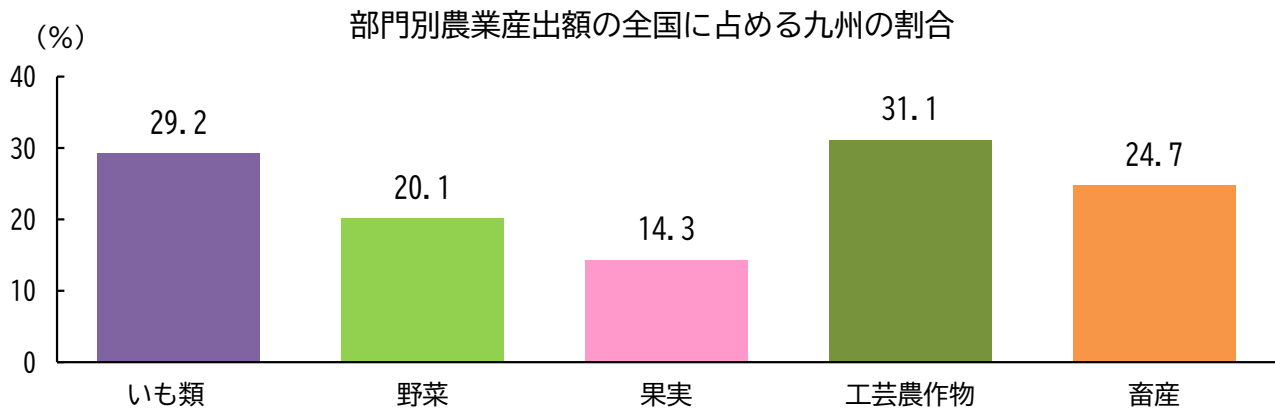
資料：内閣府「令和4年県民経済計算」

注：関東・東山は、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野です。

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合をみると、いも類、工芸農作物では約3割、畜産、野菜では約2割を占めています。

また、みかんやしらぬい(デコポン)など果実の生産も盛んです。



主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：億円、%

部 門 ・ 品 目 名		令和6（2024）年			九州における1位		
		実額（億円）		全 国 シェア (%)	県 名	実 額 (億円)	全 国 シェア (%)
		全 国	九 州				
いも類	か ん し ょ	1,107	384	34.7	鹿 児 島	223	20.1
	ば れ い し ょ	1,311	324	24.7	長 崎	158	12.1
野 菜	ト マ ト	2,442	666	27.3	熊 本	437	17.9
	い ち ご	2,144	703	32.8	福 岡	233	10.9
	き ゅ う り	1,598	392	24.5	宮 崎	208	13.0
	な す	880	210	23.9	熊 本	116	13.2
	メ ロ ン	707	154	21.8	熊 本	126	17.8
	ピ ー マ ン	668	226	33.8	宮 崎	119	17.8
	す い か	666	158	23.7	熊 本	126	18.9
果 実	み か ん	1,877	559	29.8	熊 本	207	11.0
	しらぬい(デコポン)	168	118	70.2	熊 本	83	49.4
	キウイフルーツ	111	29	26.1	福 岡	17	15.3
	マ ン ゴ ー	91	63	69.2	宮 崎	50	54.9
	な つ み か ん	44	31	70.5	鹿 児 島	20	45.5
工芸農作物	茶（生葉）	442	219	49.5	鹿 児 島	157	35.5
	さとうきび	341	137	40.2	鹿 児 島	137	40.2
	葉たばこ	177	95	53.7	熊 本	39	22.0
畜 産	肉 用 牛	7,860	3,064	39.0	鹿 児 島	1,192	15.2
	豚	7,629	2,183	28.6	鹿 児 島	912	12.0
	ブ ロ イ ラ ー	4,259	2,165	50.8	鹿 児 島	1,054	24.7

資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」

構造 — 農業産出額 —

【農業産出額は対前年比6.3%の増加】

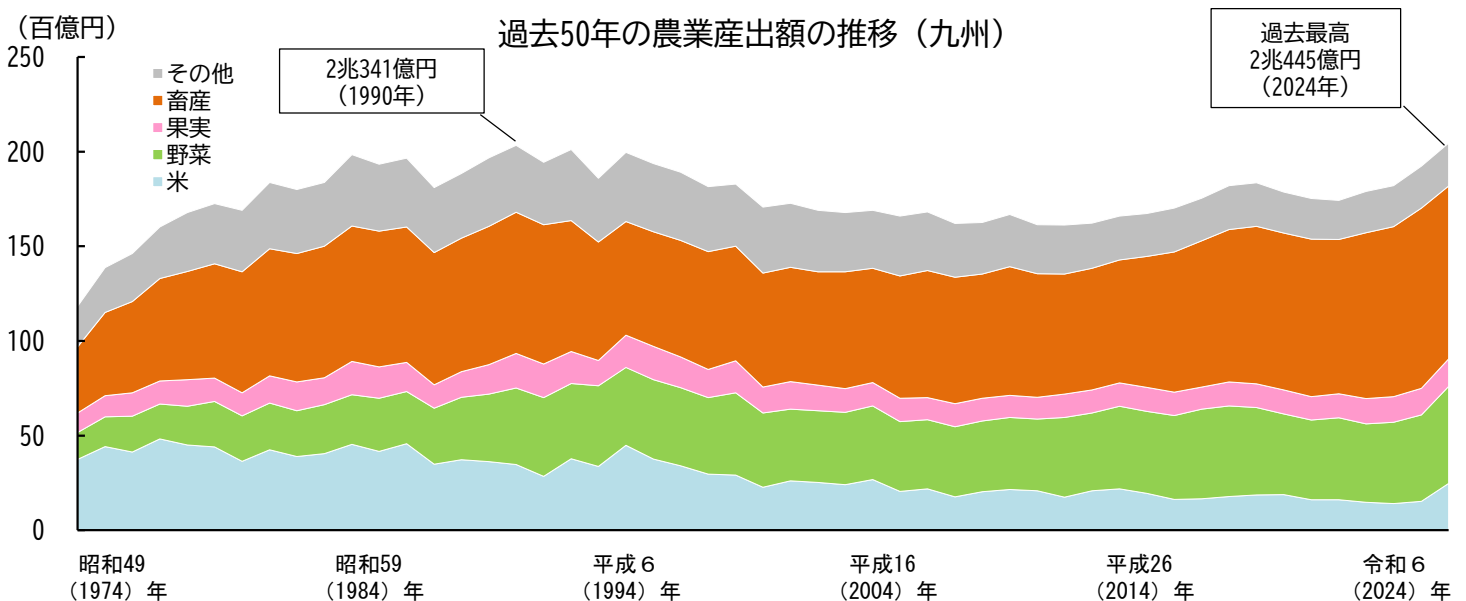
令和6(2024)年の九州の農業産出額は、米や野菜の価格上昇などの影響により、前年に比べ1,219億円(6.3%)増加し、2兆445億円となり過去最高を更新しました。

過去50年間の農業産出額の推移をみると、平成2(1990)年の2兆341億円をピークに緩やかな減少傾向が続いていたものの、野菜や畜産などを中心に平成23(2011)年から7年連続で増加しました。その後、平成30(2018)年から再び減少に転じ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需要変動や価格の低下などが影響したものの、令和3(2021)年には畜産の需要が回復し、以降は4年連続で増加しています。

農業産出額（九州）

区 分	令和5（2023）年		令和6（2024）年		対 前 年 増 減 率
	実 額	構成割合	実 額	構成割合	
農 業 産 出 額	億円	%	億円	%	%
農 業 産 出 額	19,226	100.0	20,445	100.0	6.3
耕 種 計	9,557	49.7	11,144	54.5	16.6
うち 米	1,518	7.9	2,466	12.1	62.5
い も 類	602	3.1	707	3.5	17.4
野 菜	4,569	23.8	5,139	25.1	12.5
果 実	1,413	7.3	1,443	7.1	2.1
花 き	698	3.6	675	3.3	△ 3.3
工 芸 農 作 物	485	2.5	490	2.4	1.0
畜 産 計	9,511	49.5	9,139	44.7	△ 3.9
うち 肉 用 牛	3,072	16.0	3,064	15.0	△ 0.3
乳 用 牛	781	4.1	814	4.0	4.2
豚	2,147	11.2	2,183	10.7	1.7
鶏	3,462	18.0	3,036	14.8	△ 12.3
うち 鶏 卵	1,037	5.4	725	3.5	△ 30.1
ブ ロ イ ラ ー	2,282	11.9	2,165	10.6	△ 5.1
加 工 農 産 物	158	0.8	162	0.8	2.5

資料：農林水産省「生産農業所得統計」



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

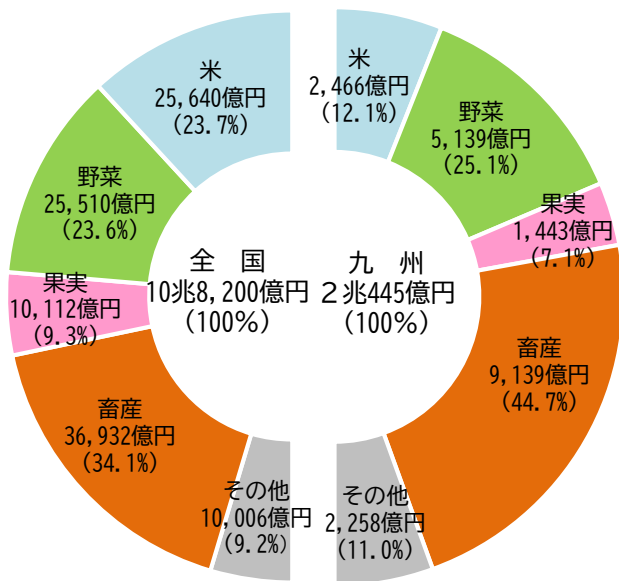
【畜産や野菜が盛ん】

令和6(2024)年の農業産出額の部門別構成割合をみると、九州は全国に比べて米の割合が低く(全国23.7%、九州12.1%)、畜産の割合が高い(全国34.1%、九州44.7%)ことが特徴です。

50年前の昭和49(1974)年と比較すると、九州では米の割合が31.7%から12.1%へ縮小した一方、野菜は12.0%から25.1%へ、畜産は30.7%から44.7%へと拡大しています。これにより、米を中心とした農業から、野菜や畜産を中心とした農業へと推移していることが分かります。

こうした多様な品目への展開が進んだ結果、現在、九州では野菜や畜産の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県が、全国順位10位以内に位置しています。

農業産出額部門別構成割合の比較（全国・九州）
（令和6（2024）年）



資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

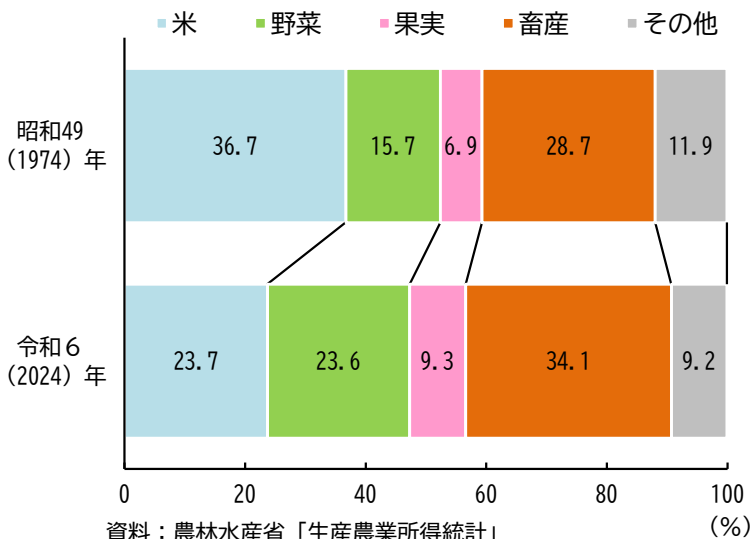
農業産出額全国上位10県の推移

単位：億円

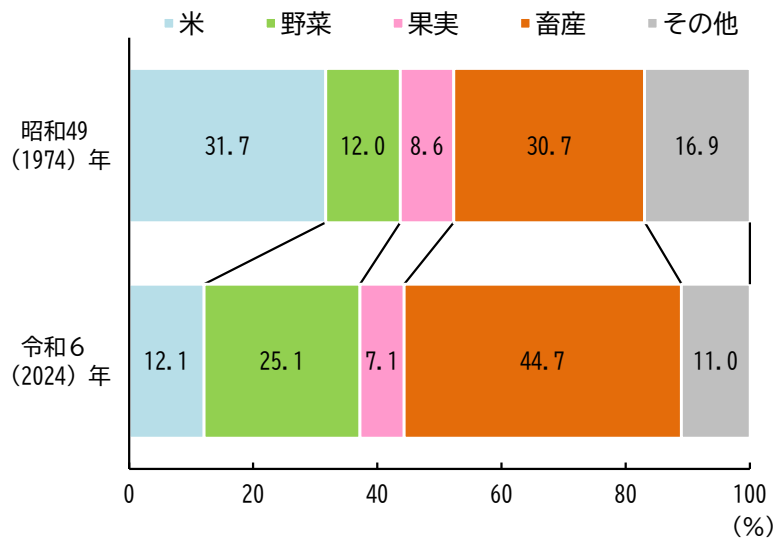
全国 順位	昭和49（1974）年		令和6（2024）年	
	都道府県名	農業産出額	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	6,049	北海道	14,817
2位	茨城	3,374	鹿児島	5,689
3位	千葉	3,224	茨城	5,494
4位	新潟	2,793	千葉	4,533
5位	福島	2,525	青森	4,119
6位	熊本	2,498	熊本	4,116
7位	長野	2,402	宮崎	3,725
8位	愛知	2,400	愛知	3,551
9位	静岡	2,367	栃木	3,448
10位	青森	2,338	岩手	3,269

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較（全国・九州）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」



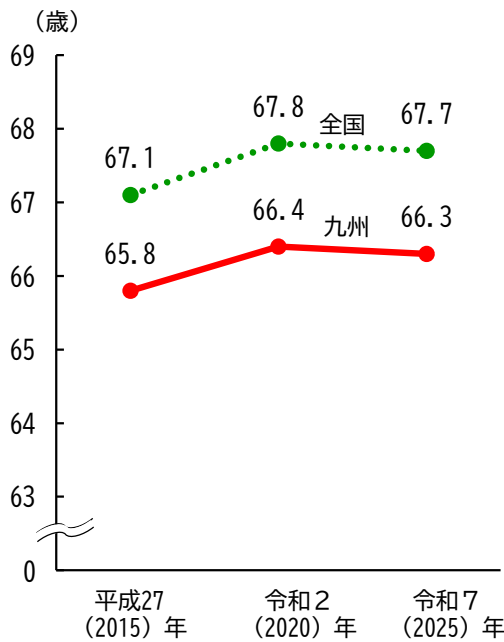
構造 — 農業経営体 —

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

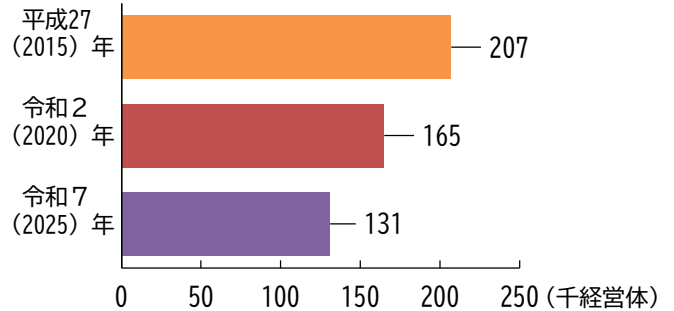
令和7(2025)年の九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は131千経営体であり、10年前に比べて約4割減少しましたが、法人化している経営体は1,023経営体(21%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。

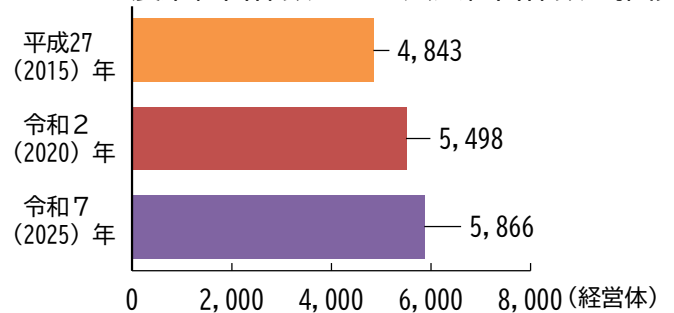
基幹的農業従事者平均年齢



農業経営体数の推移



農業経営体数のうち法人経営体数の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

基幹的農業従事者平均年齢

平成27(2015)年は販売農家の数値、令和2(2020)年、令和7(2025)年は個人経営体の数値。

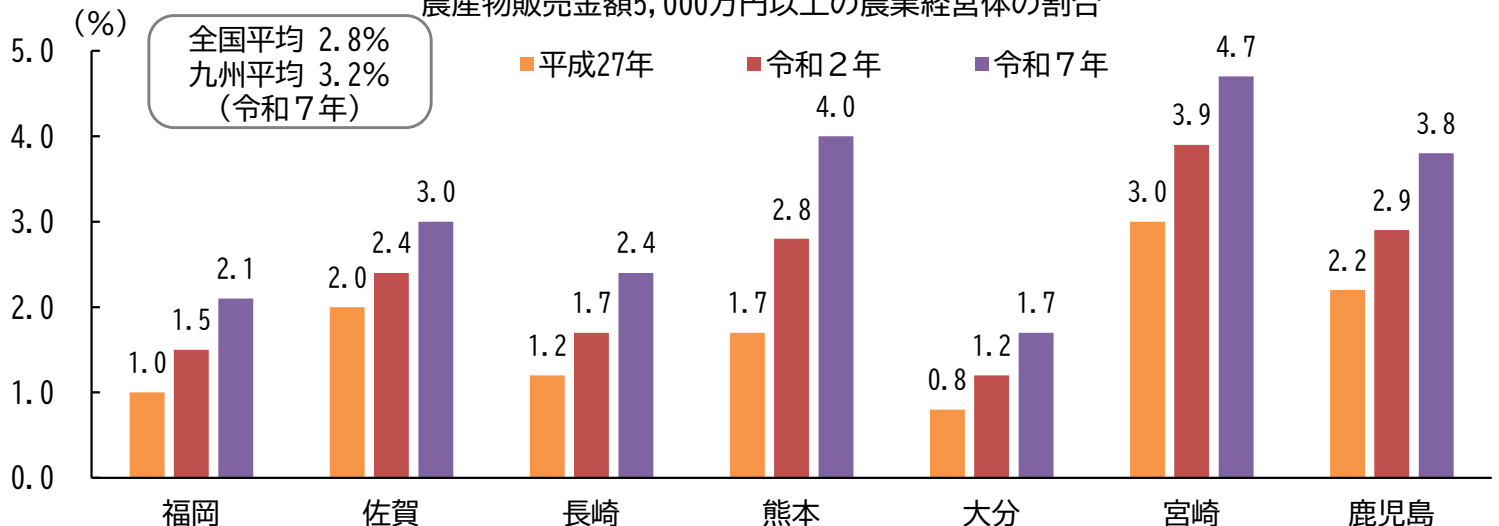
農業経営体

経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

法人経営体

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

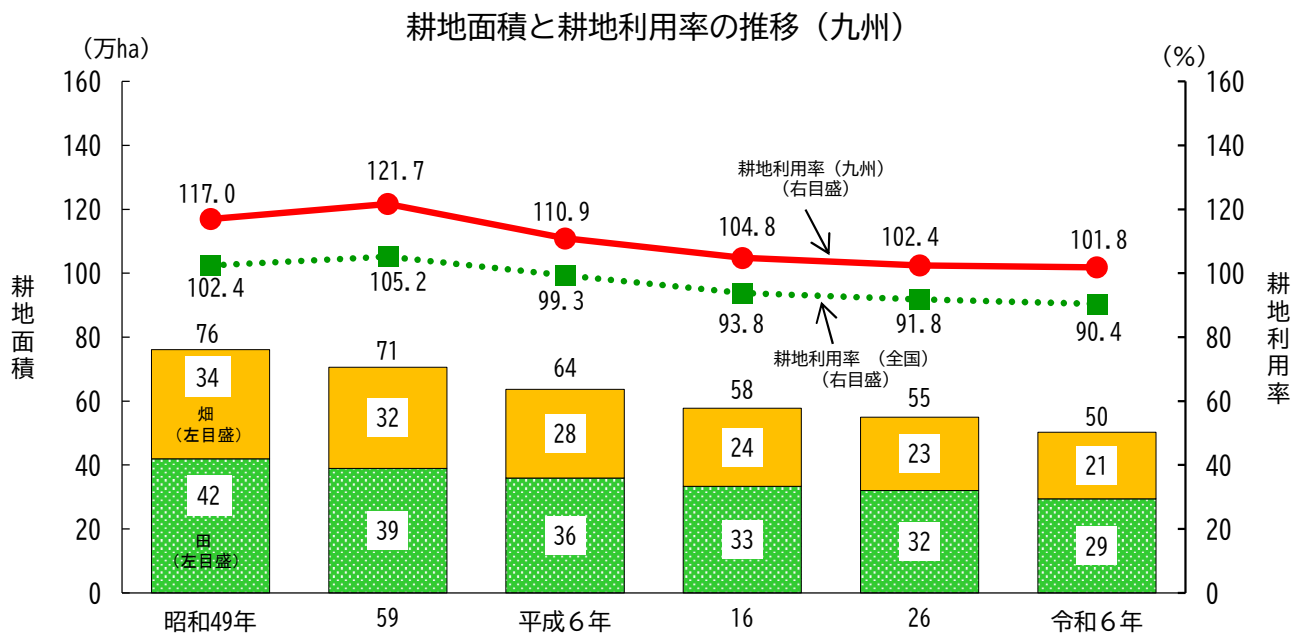
構造 — 耕地面積 —

【耕地面積は50万2,400ha、耕地利用率は101.8%】

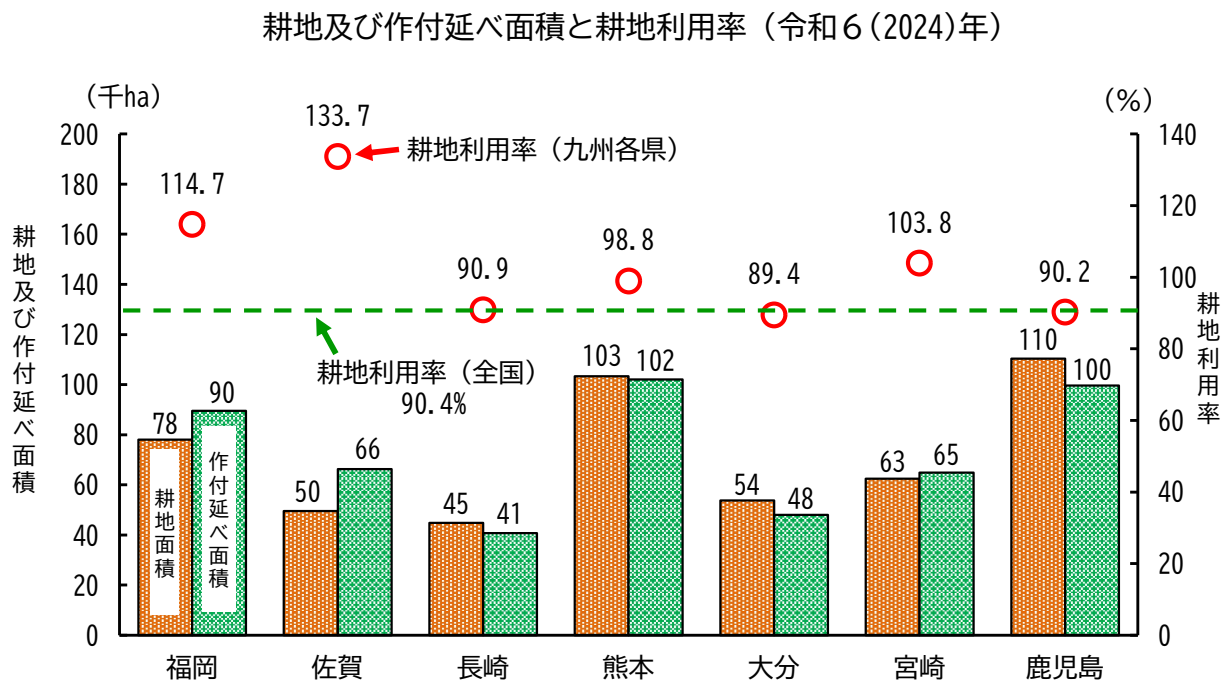
令和6(2024)年の九州の耕地面積は、全国(427万ha)の約1割を占めています。

生産者の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等により、平成6(1994)年から約14万ha減少しています。

耕地利用率は全国平均90.4%を上回る101.8%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を上回っています。



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

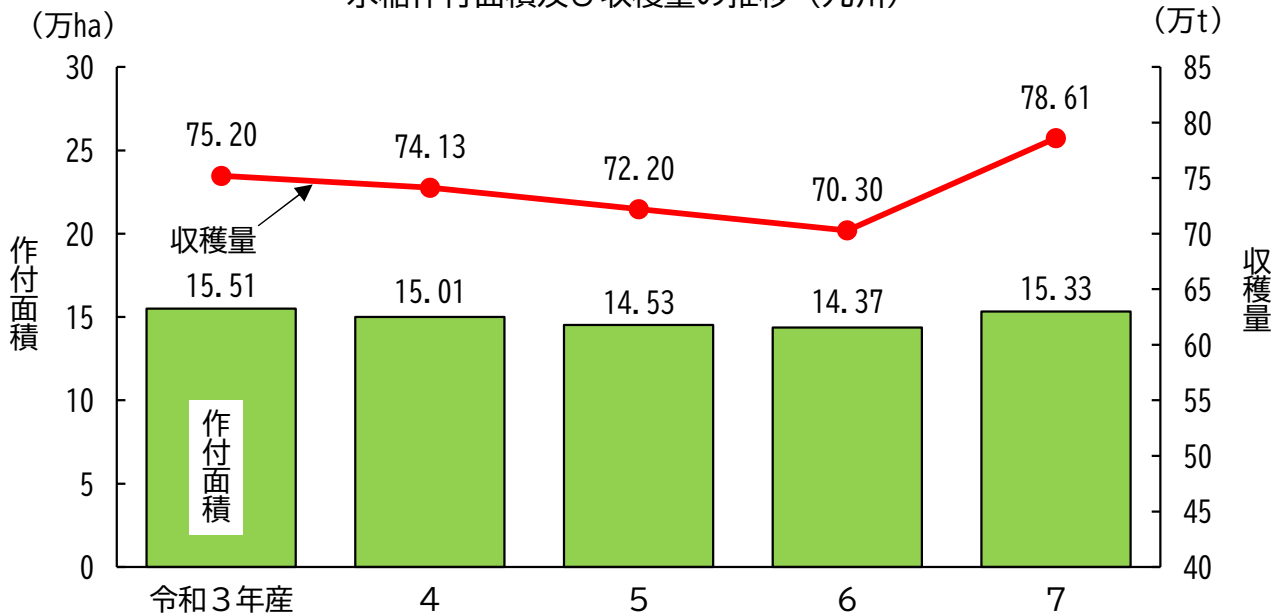
生産 - 米 -

【水稲の収穫量(子実用)^{*}は78万6,100 t (前年産に比べ8万3,100 t 増加)】

令和7(2025)年産の水稲作付面積(子実用)は、15万3,300haで前年産に比べ9,600ha増加しました。そのため、収穫量(子実用)は、前年産から8万3,100 t 増加し78万6,100 t となりました。作柄は、早期栽培及び普通栽培とも出穂期以降おおむね天候に恵まれたことや、台風等の被害が少なかったことから生育が良好となりました。

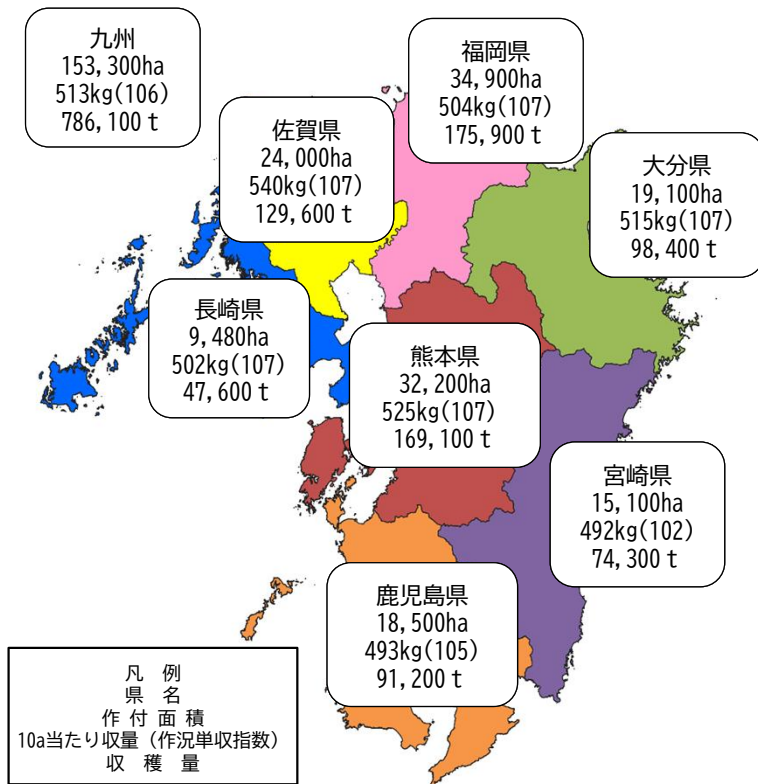
令和7年産米の食味ランキング((一財)日本穀物検定協会)では、九州で6銘柄が最高評価の「特A」を獲得しています。

水稲作付面積及び収穫量の推移(九州)

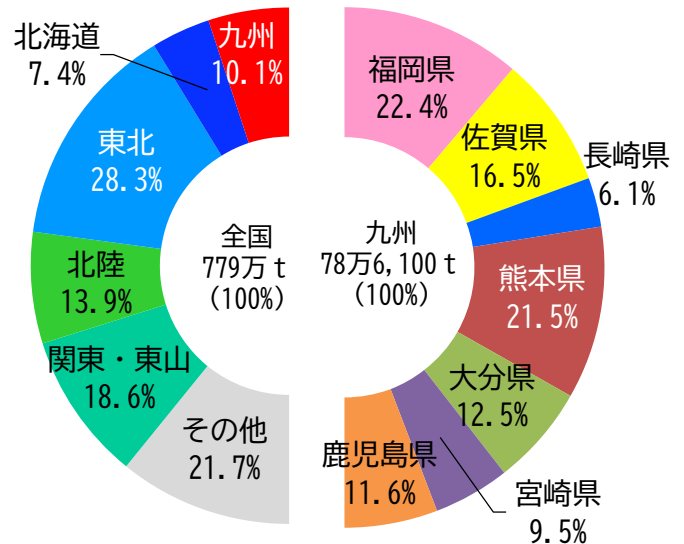


資料：農林水産省「作物統計」

県別作付面積及び収穫量



令和7(2025)年産
収穫量の割合(全国・九州)



資料：農林水産省「作物統計」

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合がある。

令和7(2025)年産食味試験結果
(九州特A一覧)

産地	品種名	地区
福岡県	元気つくし	
佐賀県	さがびより	
	夢しずく	
長崎県	にこまる	
大分県	ひとめぼれ	西部
鹿児島県	あきほなみ	県北

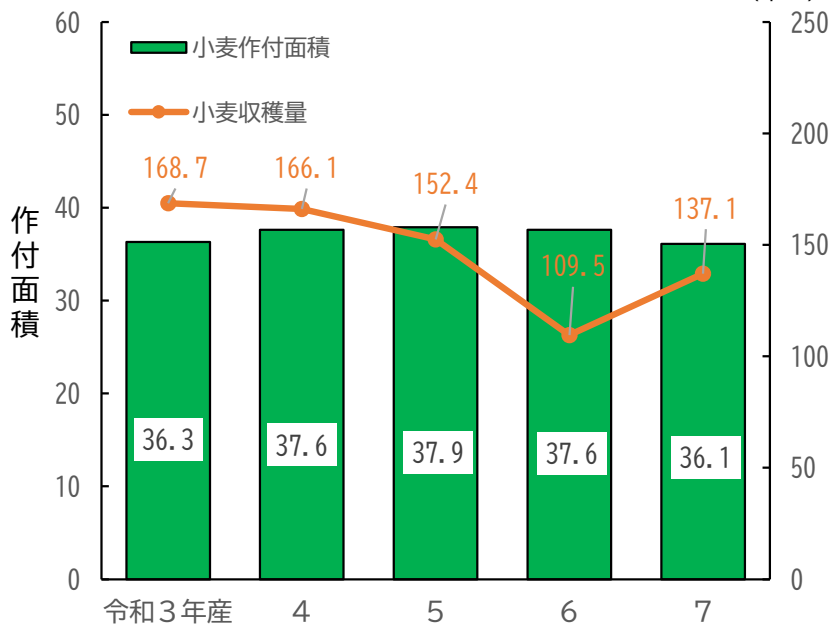
資料：(一財)日本穀物検定協会

生産 — 小麦・大豆 —

【小麦の収穫量は、前年産に比べ2万7,600 t 増加】

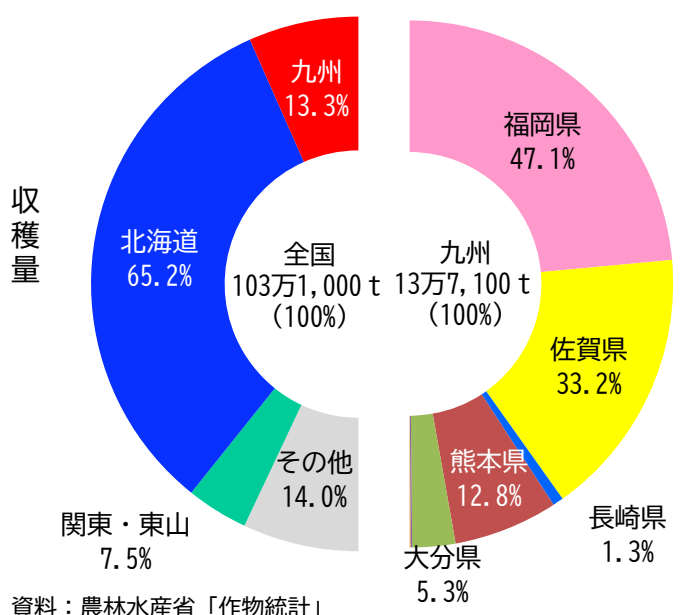
令和7(2025)年産小麦(子実用)^{※1}の作付面積は3万6,100haで前年産に比べ1,500ha減少、収穫量は13万7,100 tで、前年産に比べ2万7,600 t 増加しました。九州の全国に占める割合は13.3%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

(千ha) 作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和7(2025)年産
収穫量の割合(全国・九州)



資料：農林水産省「作物統計」

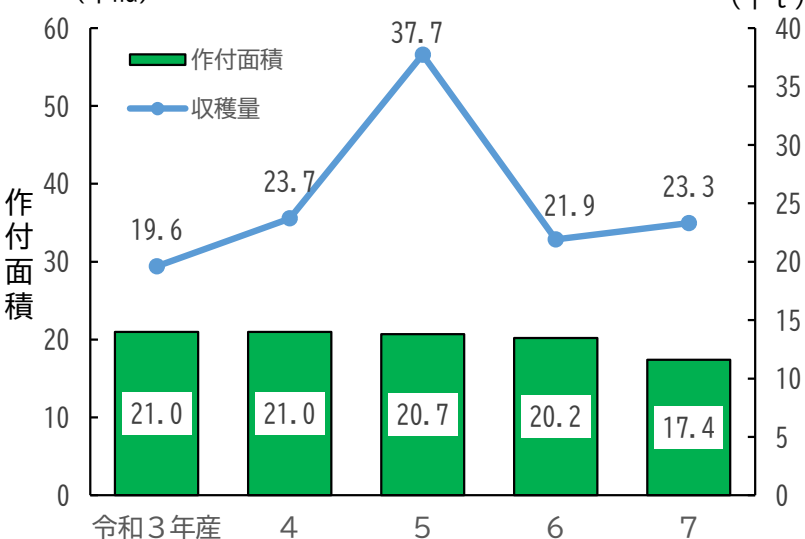
注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合がある。

【大豆の収穫量は、前年産に比べ1,400 t 増加】

令和7(2025)年産大豆(乾燥子実)^{※2}の作付面積は1万7,400haで前年産に比べ2,800ha減少、収穫量は2万3,300 tで、は種期以降の高温や少雨(過乾燥)による発芽不良や生育不良がみられたものの、台風被害及び虫害の発生が少なかったことから前年産に比べ1,400 t 増加しました。

九州の収穫量の全国に占める割合は約9%となっており、福岡、佐賀で約8割を生産しています。

(千ha) 作付面積及び収穫量の推移(九州)

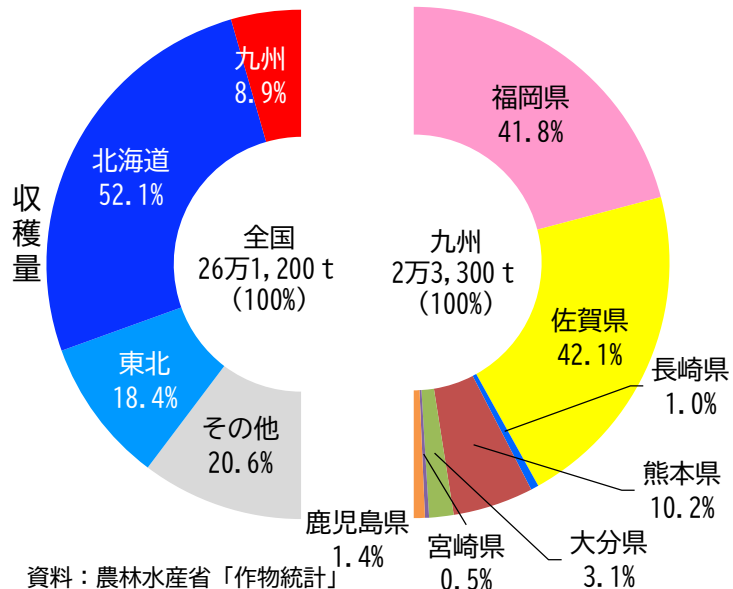


資料：農林水産省「作物統計」

※1 主に食用にすること(子実生産)を目的とするものをいう。

※2 食用を目的に未成熟(完熟期以前)で収穫されるもの(えだまめ)を除いたものをいう。

令和7(2025)年産
収穫量の割合(全国・九州)



資料：農林水産省「作物統計」

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合がある。

生産 — 野菜 —

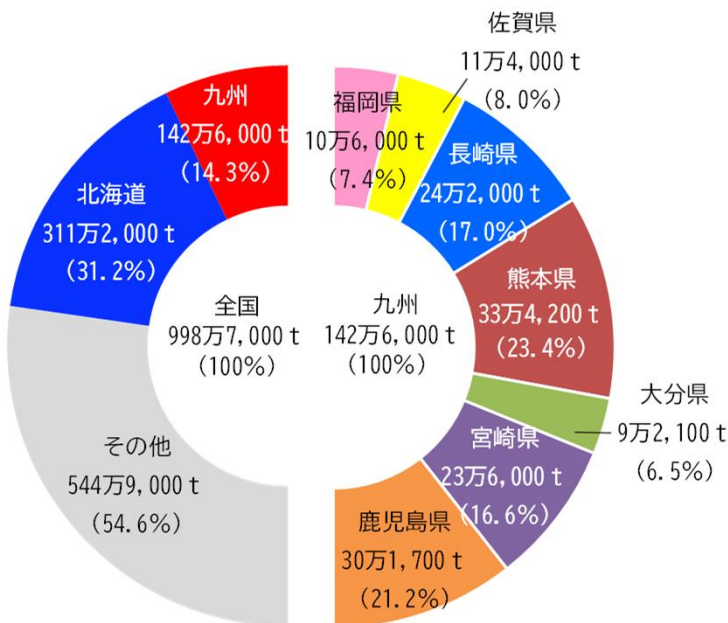
【九州は重要な野菜供給基地】

温暖な気候の九州は野菜の栽培が盛んです。令和6(2024)年産の指定野菜(14品目)^{*1}は、ピーマン及びトマト等の施設野菜や、さといも及びだいこん等の露地野菜を中心に、収穫量では全国の14.3%、産出額では全国の20.7%を占めています。また、野菜全体の産出額(ばれいしょは除く)^{*2}でも、全国の20.1%を占めていることから、九州は重要な野菜供給基地であるといえます。

全国に占める産出額の割合が高い指定野菜を品目別にみると、ピーマン(全国シェア33.8%。宮崎県全国2位、鹿児島県同3位)、トマト(同27.3%。熊本県同1位)、さといも(同25.7%。宮崎県同2位、鹿児島県同5位、熊本県同6位)の順となっています。

指定野菜以外では、いちご(同32.8%。福岡県同2位、熊本県同3位、長崎県同5位、佐賀県同8位)、すいか(同23.7%。熊本県同1位)、メロン(同21.8%。熊本県同2位)等が、全国に占める産出額の割合が高い品目として挙げられます。

令和6(2024)年産
指定野菜収穫量の全国シェア及び九州内割合

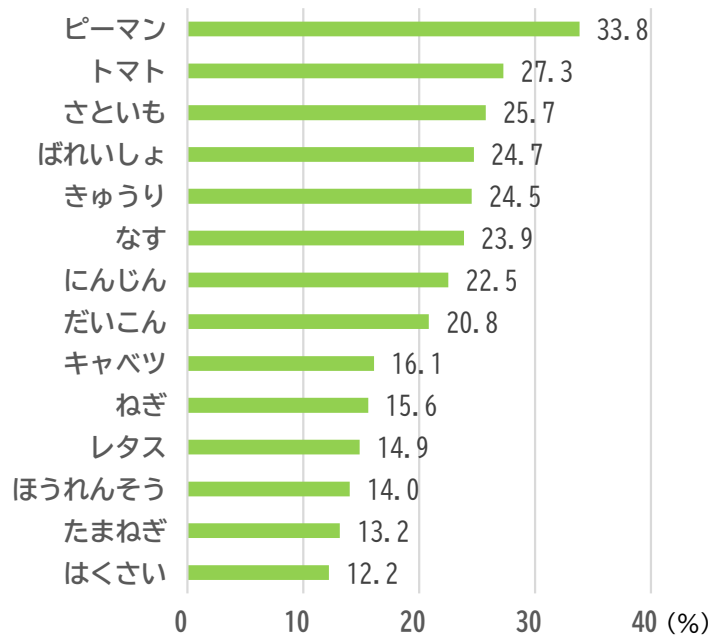


資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：1 野菜生産出荷統計結果を基に九州農政局において指定野菜を集計した値

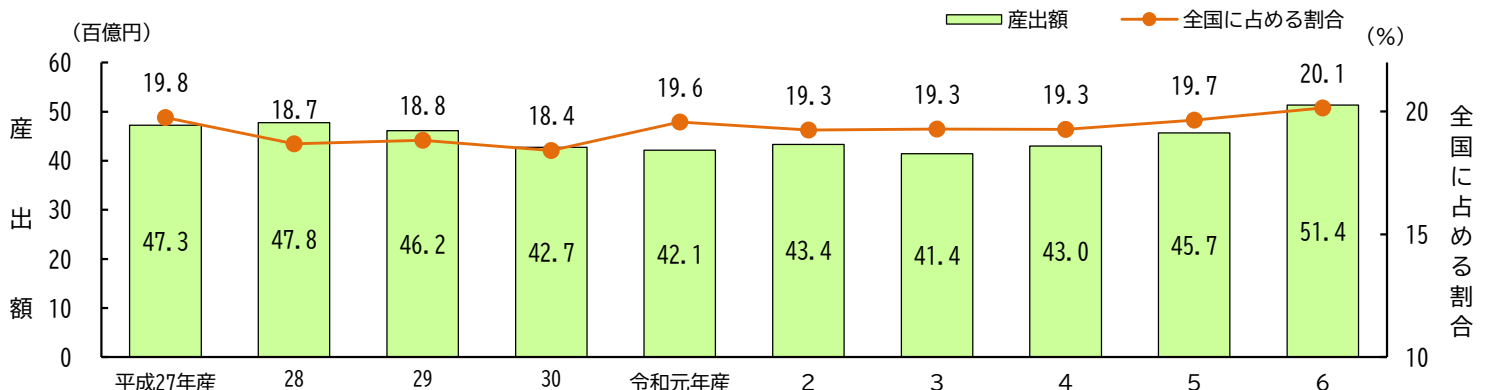
2 数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

令和6(2024)年産
九州の指定野菜産出額の全国シェア



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

野菜の産出額の推移(九州) (10カ年)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

30 *1 指定野菜とは、野菜のうち特に消費量の多いもの(下右のグラフの14品目)

*2 農業産出額では、ばれいしょは「いも類」に分類される。

生産 — 果樹 —

【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は微増】

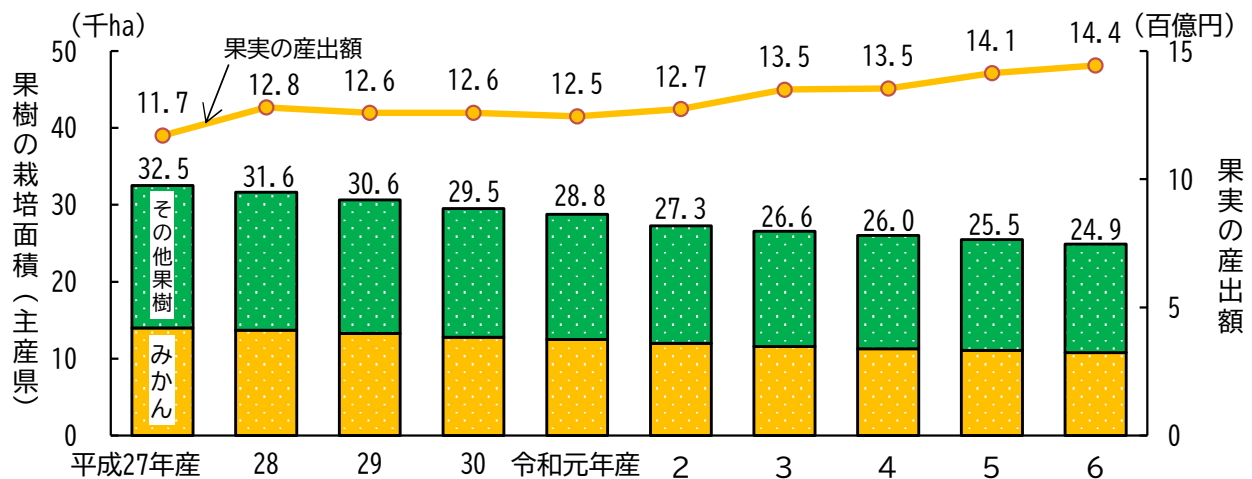
果樹の栽培面積(主産県)^{※1}は、生産者の高齢化や担い手不足による廃園等により、令和6(2024)年産は2万4,900haで前年産に比べ600ha減少となっています。

一方で、果実の産出額は1,443億円と前年産に比べ30億円(2.1%)増加しており、これは、生産量の減少によって市場の品薄感が高まり、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられます。

九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積が1万300haで前年産に比べ300ha(2.8%)減少し、夏期の高温により落果や日焼け果が発生したこと等から、収穫量は15万9,100tで、前年産に比べ5万1,600t(24.5%)減少しています。また、九州の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で約8割を占めています。

主な果実の産出額は、みかん559億円(全国シェア29.8%、熊本県全国4位、佐賀県同5位、長崎県同6位、福岡県同8位)、ぶどう192億円(同9.0%、福岡県同5位、大分県同10位)、しらぬい(デコポン)118億円(同70.2%、熊本県同1位)、日本なし106億円(同14.1%、熊本県同7位、大分県同9位、福岡県同10位)となっています。

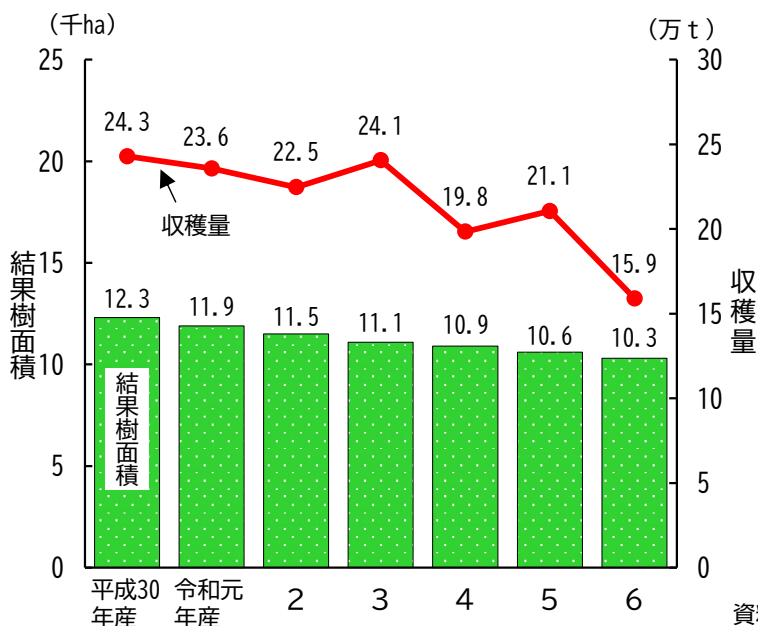
果樹の栽培面積(主産県)及び果実の産出額の推移(九州)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

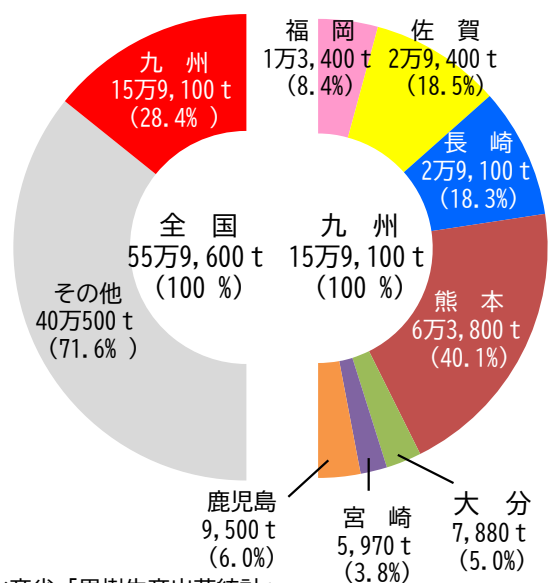
注：その他果樹は、その他のかんきつ類、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも

みかん結果樹面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

令和6年産
みかん収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

*1 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県

*2 結果樹面積とは、生産者が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積

生産 — 花き —

【産出額は回復傾向、作付面積は緩やかに減少】

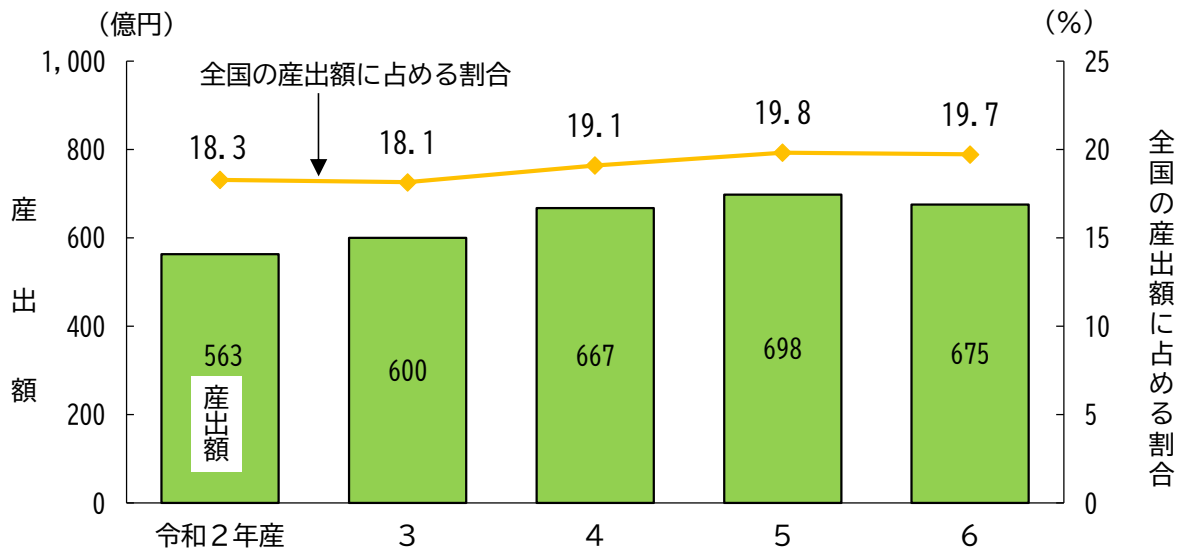
令和6(2024)年産花きの産出額は、全国の19.7%を占める675億円となっています。前年産に比べ23億円減少しており、これは、夏の高温等の影響により生産量が減少したこと等が要因と考えられます。

また、令和6(2024)年産切り花の作付面積は2,190haで、前年に比べ70ha(3.1%)減少しています。これは生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることを背景に、近年緩やかに減少しているためです。

出荷量は5億7,470万本で、前年産に比べ3,740万本(6.1%)減少しているものの、全国シェアは20.2%を占めています。

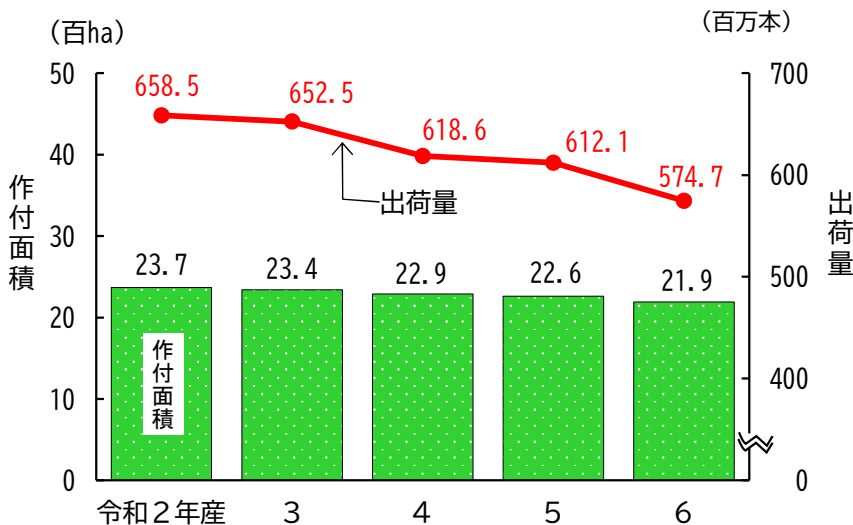
県別の出荷量をみると、きくやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくやゆり等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の44.2%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移



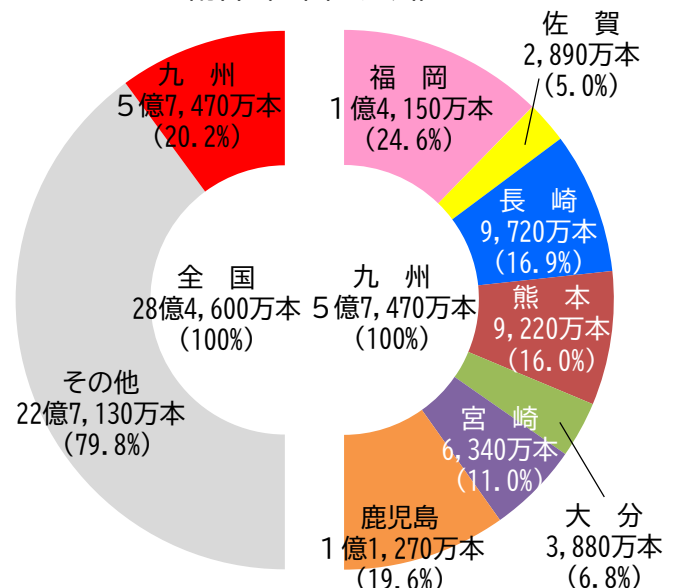
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き（切り花類）作付面積及び出荷量の推移（九州）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

令和6(2024)年産
花き（切り花類）出荷量の
割合（全国・九州）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

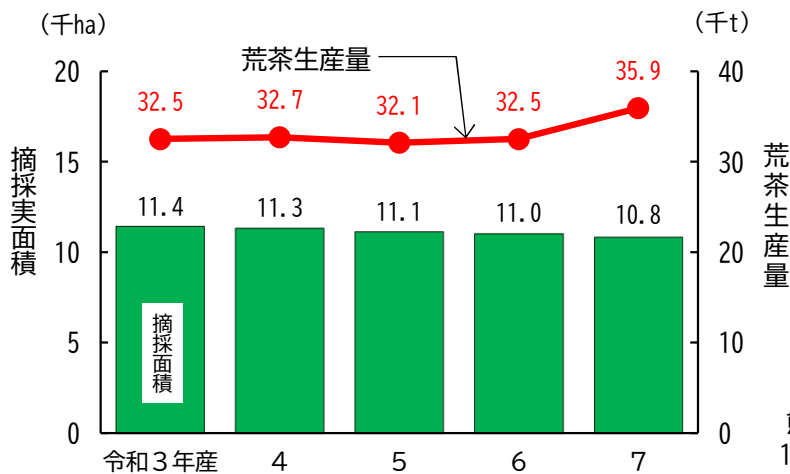
生産 — 地域特産作物 —

【茶：九州（主産県）の荒茶生産量は、全国（主産県）の約5割を占める】

※1 主産県の令和7（2025）年産茶の摘採面積は1万800haで前年産に比べ200ha（1.8%）減少しており、荒茶生産量は3万5,900 tで前年産に比べ3,400 t（10.5%）増加しています。

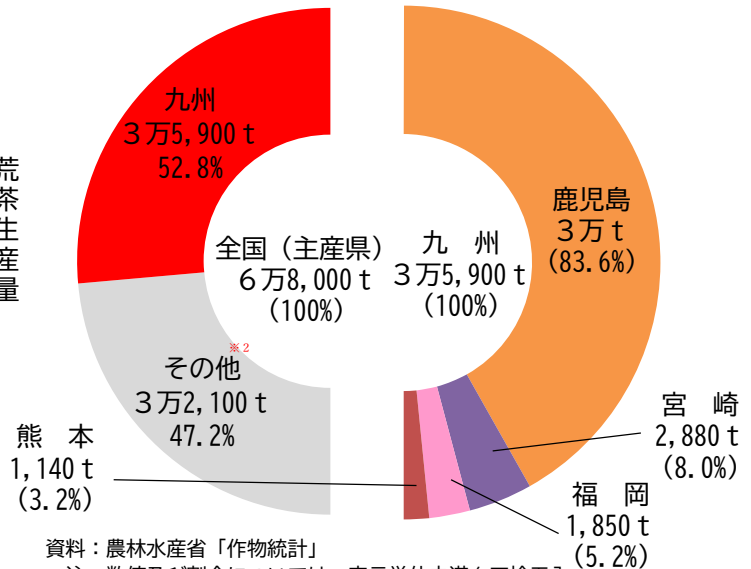
また、荒茶生産量は全国（主産県）の52.8%を占めており、その中でも鹿児島県は、九州全体の8割以上を占めるなど、全国第1位の産地が形成されています。その他、宮崎県、福岡県でも、煎茶やかぶせ茶等の生産、加工が盛んです。

茶摘採実面積及び荒茶生産量の推移（九州（主産県））



資料：農林水産省「作物統計」
注：令和7年産は概数値である。

令和7（2025）年産
荒茶生産量の割合（全国（主産県）・九州（主産県））



資料：農林水産省「作物統計」
注：数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合があります。

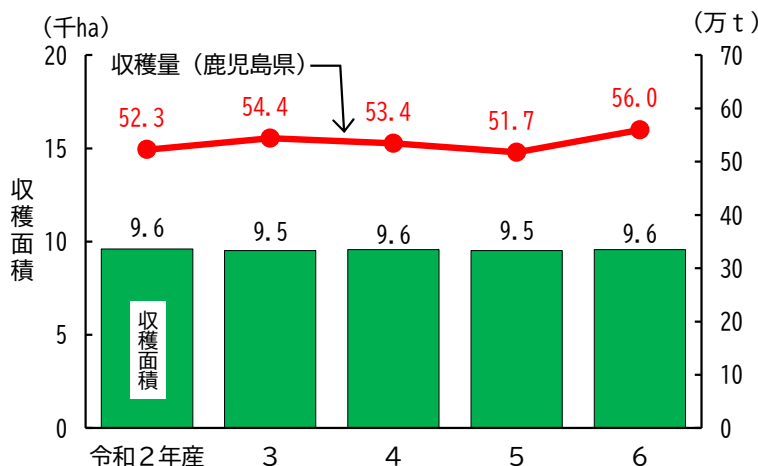
【さとうきび：鹿児島県南西諸島の基幹的作物】

さとうきびは、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の基幹作物として栽培されています。

近年、鹿児島県のさとうきび収穫面積は横ばい傾向で推移しており、令和6（2024）年産の収穫面積は9,570haとなっています。

一方、収穫量は台風等による影響も少なく、おおむね順調な生育となったことから、前年産に比べて4万2,200 t（8.2%）増加しています。

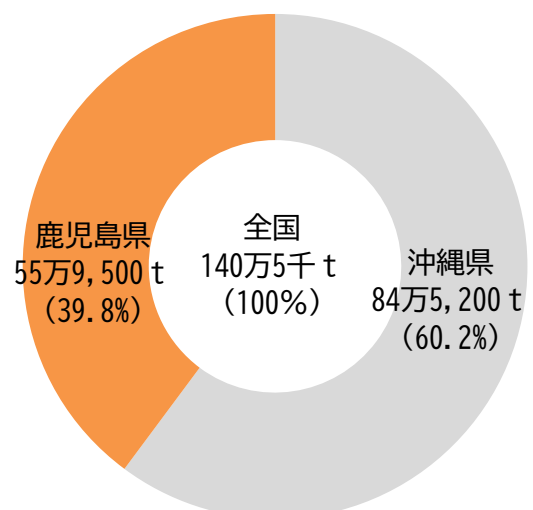
さとうきび収穫面積及び収穫量の推移（鹿児島県）



資料：農林水産省「作物統計」

* 1 九州（主産県）は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島の合計値
* 2 その他は、静岡、三重、京都、埼玉の合計値

収穫量の全国シェア（令和6（2024）年産）



資料：農林水産省「作物統計」

注：数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致していない場合があります。

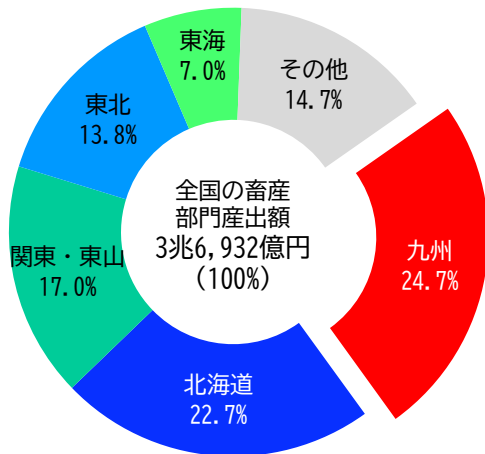
生産 — 畜産 —

【九州は日本最大の畜産地帯】

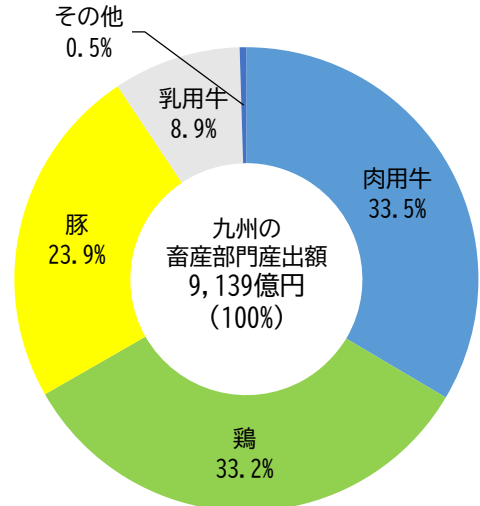
畜産部門の農業産出額は、全国の約25%を占めており、畜種別では、高い順に肉用牛、鶏（鶏卵及びブロイラー）、豚、乳用牛となっています。

また、九州における畜種別農業産出額の全国シェアは、それぞれブロイラー（約5割）、肉用牛（約4割）、豚（約3割）を占め、農業地域別で全国1位の生産地域であり、我が国最大の食肉供給基地となっています。

農業産出額の畜産部門の全国割合
(令和6(2024)年)



九州の畜産部門産出額の畜種別割合
(令和6(2024)年)



畜種別

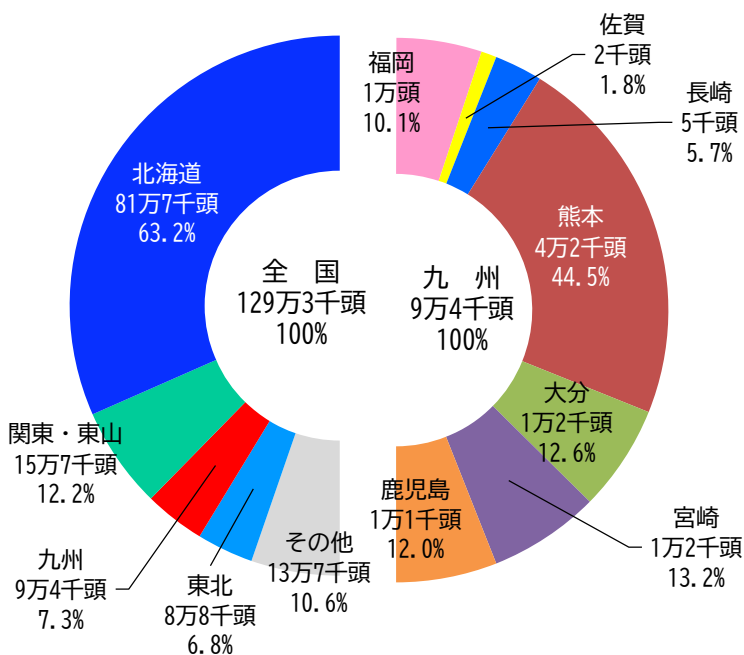
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

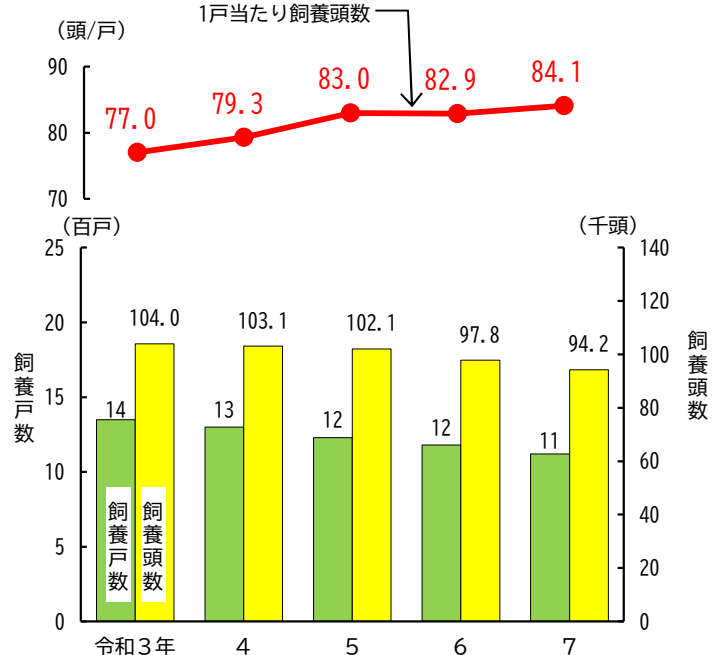
【乳用牛】

飼養頭数は近年減少傾向で推移しており、令和7(2025)年は前年に比べ、3,600頭減少し9万4,200頭となりました。県別の飼養頭数では熊本県が全国3位となっています。

飼養頭数の割合（全国・九州）
(令和7(2025)年2月1日現在)



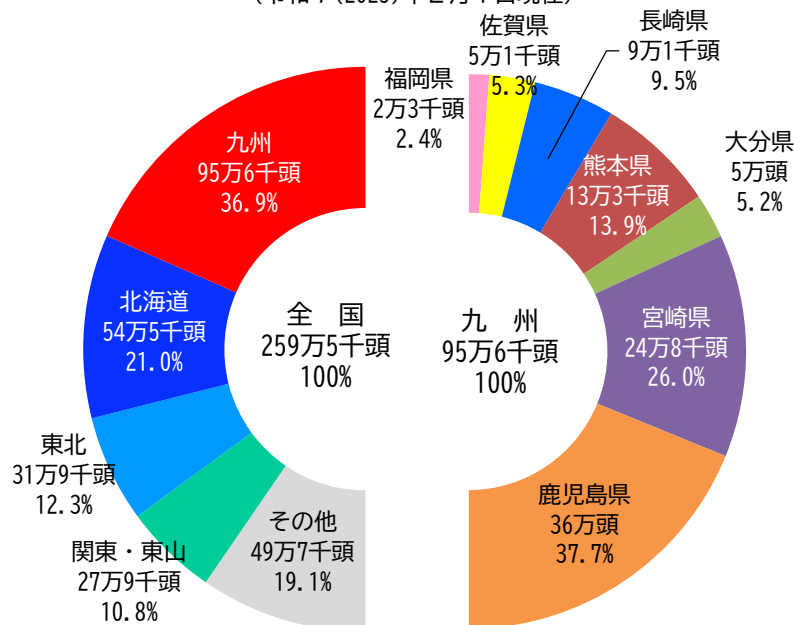
飼養戸数、飼養頭数の推移（九州）



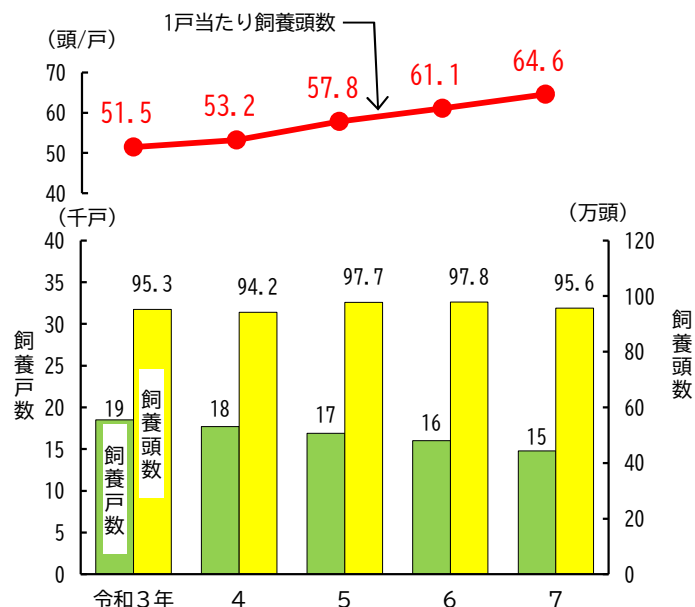
【肉用牛】

飼養頭数は各般の生産基盤強化対策の実施により、増加傾向で推移していたものの、令和7(2025)年については前年に比べ2万1,900頭減少し95万6,300頭となりました。九州は全国の飼養頭数の3分の1強を占めており、県別の飼養頭数では鹿児島県が全国2位、宮崎県が同3位、熊本県が同4位、長崎県が同5位となっています。

飼養頭数の割合（全国・九州）
（令和7(2025)年2月1日現在）



飼養戸数、飼養頭数の推移（九州）



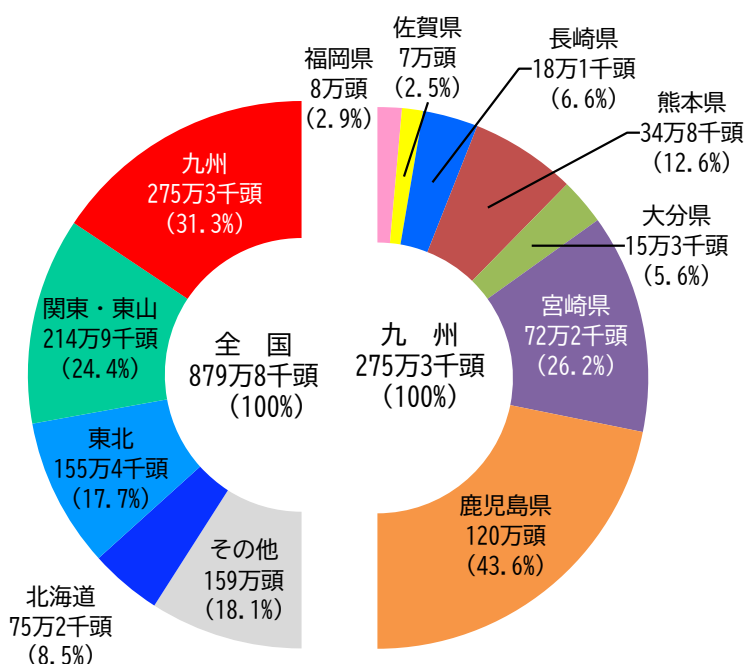
注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

資料：農林水産省「畜産統計」

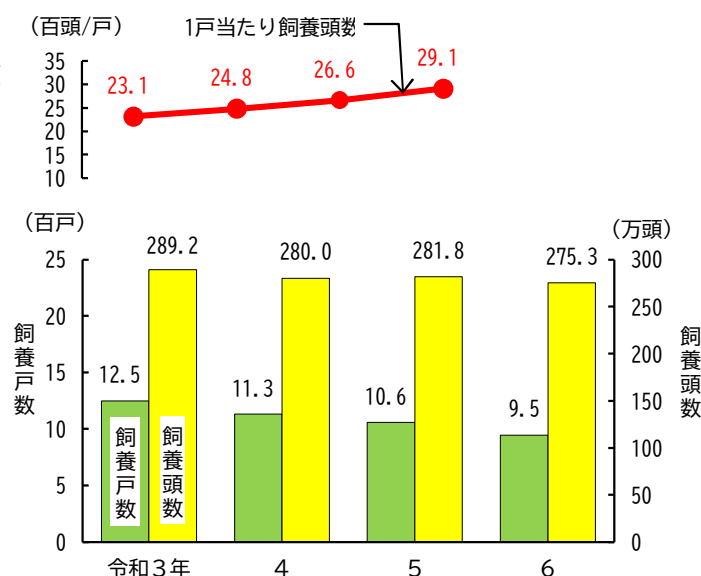
【豚】

飼養頭数は減少傾向で推移しており、令和6(2024)年は前年に比べ6万5,000頭減少し275万3,000頭となりました。県別の飼養頭数では鹿児島県が全国1位、宮崎県が同3位となっています。

飼養頭数の割合（全国・九州）
（令和6年(2024)年2月1日現在）



飼養戸数、飼養頭数の推移（九州）



注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

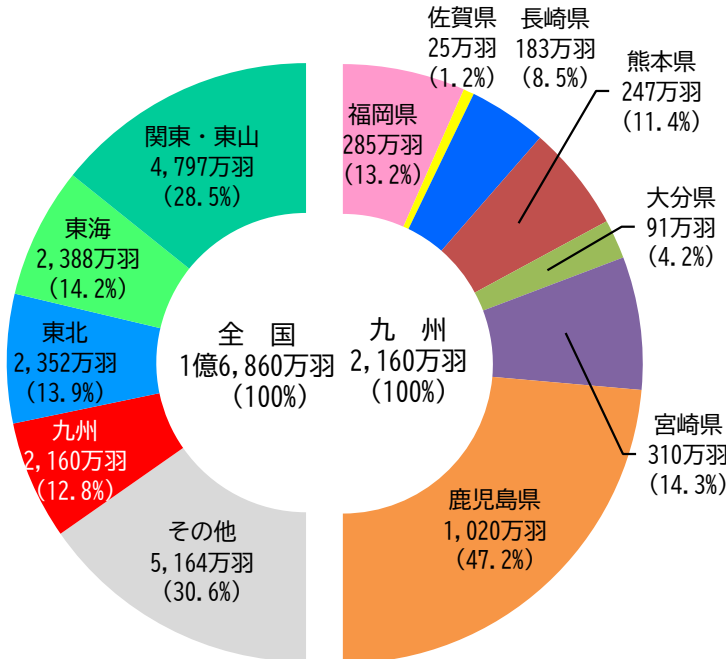
資料：農林水産省「畜産統計」

注：令和7(2025)年は、農林業センサス実施年のため「豚」の調査休止。

【採卵鶏】

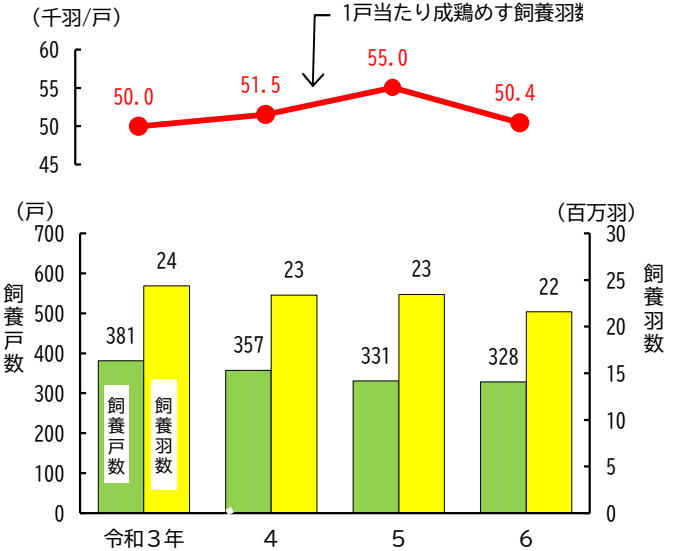
飼養羽数は近年ほぼ横ばいで推移しており、令和6(2024)年は前年に比べ185万8,000羽減少し2,160万1,000羽となりました。県別の飼養羽数では鹿児島県が全国3位となっています。

飼養羽数の割合(全国・九州)
(令和6(2024)年2月1日現在)



注: 数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



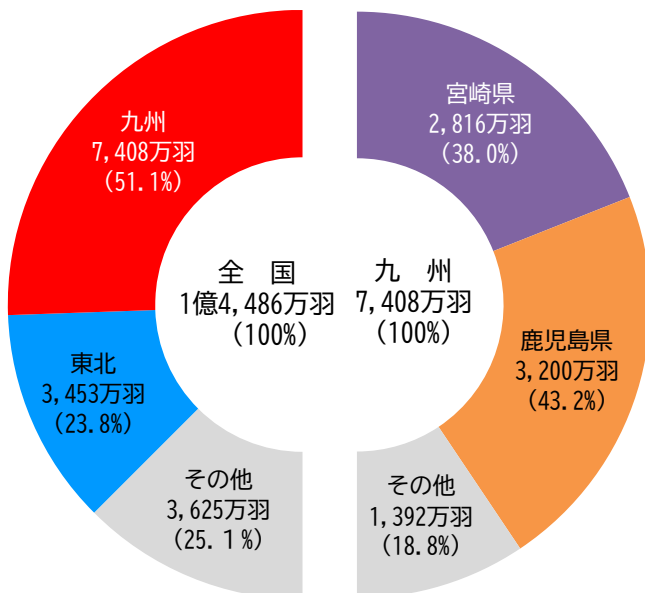
資料: 農林水産省「畜産統計」

注: 令和7(2025)年は、農林業センサス実施年のため「採卵鶏」の調査休止。

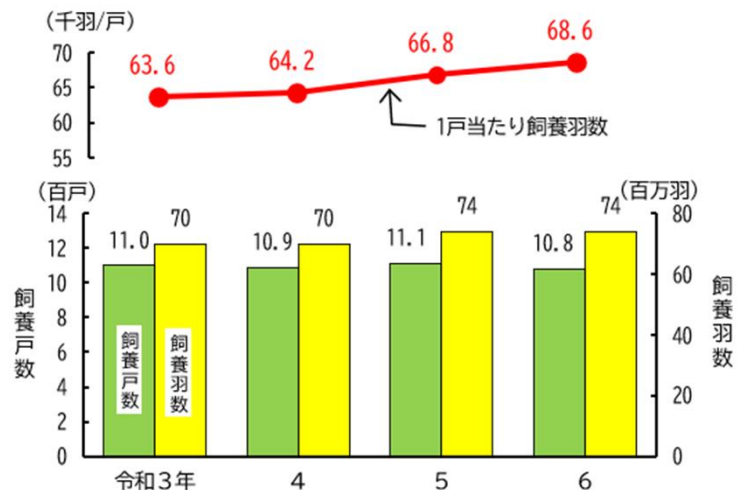
【ブロイラー】

飼養羽数は近年ほぼ横ばいで推移しており、令和6(2024)年は前年に比べ3万3,000羽減少し7,408万羽となりました。県別の飼養羽数では、鹿児島県が全国1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養羽数の割合(全国・九州)
(令和6年(2024)年2月1日現在)



飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)



資料: 農林水産省「畜産統計」

注: 令和7(2025)年は、農林業センサス実施年のため「ブロイラー」の調査休止。